

回 帰 花 岡 伸 宏

recurrence HANAOKA, Nobuhiro

2012年6月2日[土] — 17日[日]

花岡伸宏(はなおか・のぶひろ/広島・1980~)は、2006年に京都精華大学大学院を修了後、近年までおもに木彫による作品を制作・発表し、2009年には「第12回岡本太郎現代芸術賞展 特別賞」を受賞するなど、その特徴的な作品はこれまでも多くの注目を集めています。

「飯の棒」は木彫の人物像に捻り込まれて貫通し、仏像の上部はバネに引っ張られ、開けられた穴からは押しピンを含んだ糊状の飯が押し出され、青と黄の絵具は垂れて飯の桶に緑色となって溜まる……。おもに木や樹脂を用いた花岡作品の多くは、まるで無関係な要素がコラージュされ、またそこに何らかのアクション(の痕跡)が残されています。花岡は素材感や触感、大きさや色、あるいは香りや食感といった鑑賞者の記憶や経験までを含め、その背景や文脈の異なるそれぞれの要素を、相互に特定の文脈や意味を持たないよう注意深く選び出し、それぞれに絶妙な差異とバランスを保たせながらひとつのカタチに統合し、そこに「いつまでも意味を持ち続けたい」という特異な状況をつくり出し出しているといえます。

花岡作品を前にした時、一見するとそのトリッキーなユニークさに驚き、思わず笑みを浮かべてしまいます。しかし、それは花岡により入念に吟味・制御されてつくり出された「いつまでも・どこまでも脈絡の無いもの:状況」を前に、事態を掴みかねて困惑し、思わず浮かべてしまう「思考停止の微笑」のようであるといえます。そして、目の前の状況に意味を求めて、目を凝らし、思案を巡らせ、なおも状況を掴めないうちに、次第にそれがどこか無意味なものである感覚を覚えるのではないのでしょうか。また、思考が再び停止に向かう時、ふいに目の前の「得体の知れない」存在への不安や恐れをも感じる瞬間があるのではないのでしょうか。

様々な要素を見極め、彫り出し、削ぎ落とし、ひとつの造形に統合された花岡の作品は、目の前の事象が時がまったく違って見える・感じるショッキングな作品体験をもたらします。近年は、そのバランスをより危うく、絶妙なものとしながら、コラージュ的な構成に見られるスピード感と、木に向かい確信をもってそれを彫り出すプロセスのギャップや、質量や量塊による存在感を強く意識するなるなど、より「彫刻」としての在り方についての試行を見せています。

自らが「回帰」と名付けた本展では、新作を含めた作品群より自身がピックアップした作品により、その展開を概観いただけるのではないのでしょうか。

【展覧会について:花岡伸宏】

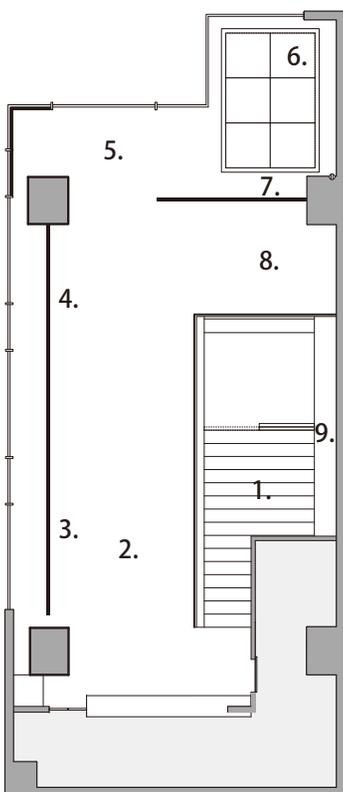
脈絡の無いもののイメージ同士を組み合わせることで、それらに付随する意味や価値、物語性などを曖昧にするという作業を行っています。人は何かものを見た時に必ず、自分の今までの経験や知識と結びつけて、その存在を理解しようとするものが何であるか判断したり、納得しようとしています。

しかし私たちの日常の中で稀に過去の経験や知識が通用しないもの、又は場面と遭遇することがあります。

時にその存在(状況)は不条理であったり、人に不快感を与える事もあるでしょう。

私はこのように前後の文脈を超え意味を失っても尚、形として存在し続けるものに心を揺さぶられます。

本展覧会では木彫による立体を中心に、平面、映像を過去作品と共に展示致します。



【展示作品】

1. 万力の集合体はジャガイモを持ち上げる

2012 69×70×7 cm
木、アクリル絵具、インクジェットプリント

2. 無形の排泄A

2012 107×42×37 cm
木

3. 無形の排泄B

2012 53×46、40×20×20 cm
木、キャンバス、水槽、アクリル絵具、水、墨汁、他

4. 不在のための構成(女)

2011 35×58×5 cm
木、油絵具、他

5. 垂れた絵の具は飯の桶にたまる

2010 190×75×53 cm
木、樹脂、油絵具、アクリル絵具、他

6. 飯の構成

2009 インスタレーション
樹脂、茶碗、箸、ダンボール、畳

7. 無題

2009 26×36.5 cm
モンパル紙 アクリル絵具

8. 入念な押し出し(布)

2012 130×60×60 cm
木、樹脂、ピンセット、画鋏、顔料

9. an error message

映像10分37秒

【作家略歴】

花岡 伸宏 HANAOKA Nobuhiro

1980年 広島県生まれ

2006年 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了

【個展】

2012 「入念な押し出し」(ギャラリー恵風 京都)

2011 「an error message」(STREET GALLERY 神戸)

「不在のための構成」(ART SPACE-ZERO ONE 大阪)

2010 「ピンセットの刺さった円柱の飯は木彫の台を貫通する」
(ギャラリー恵風 京都)

2009 「ずれ落ちた左肩は飯に刺さる」(CPG/超能力 京都)

【グループ展】

2011 「medias conection vol.2」(此花メデア 大阪)

「激凸展」(unseal contemporary 東京)

2010 「VIDEO RELAY 2010」(MUZZ PROGRAM SPACE 京都)

「Art Camp 2010」(サントリーミュージアム天保山 大阪)

「ボクラノミカタ」(ガレリアフィナルテ 名古屋)

2009 「第12回岡本太郎現代芸術賞展」(特別賞)

(川崎市岡本太郎美術館)

「After School・放課後の展覧会」(元立誠小学校 京都)

2006 「JEANS FACTORY ART AWARD 2006」(優秀賞)

(高知市文化プラザ かるぼーと)

2005 「群馬青年ビエンナーレ'05」(奨励賞)(群馬県立近代美術館)